須坂市立須坂小・須坂支援学校 校長室だより





須坂小学校 須坂支援学校

「自分から」「つながる」 「認め合う」

「自分から、自分で、 せいいっぱい」

令和4年11月16日 第4号

住所:須坂市須坂 780 印刷:須坂小学校職員室 発行責任者:竹村信之(校長)

気がつけば11月半ば、紅葉から落ち葉へと駆け足で進み、冬が目の前です。今年の秋の 「共にある学校」「地域とつながる学校」としての歩みを紹介します。

「共に創る運動会」~子どもたち&職員が一緒に~

今年度は昨年度以上に、小学校の児童 と支援学校の児童が、練習から「共に 取り組む」姿が見られました。1年生 のかけっこでは、「カラー石灰でコー スの真ん中に線を引いて、どの子もま っすぐに走れるように」工夫がされ、 玉入れでも、高いかごだけでなく、水 平に玉を投げてどんちゃんの口に入れ る方式も併用しました。障がいのある 子もない子も一緒に参加する「インク ルーシブ」な環境作りが、どの子も力 を発揮できる「ユニバーサルデザイ ン」につながっていました。

こうした環境のもと、支援学校の児 童たちが、自分の参加の仕方で自分らし く精一杯取り組み、それを受け入れ ている小学校の児童たち。まさに 「共に生きる姿」でした。

また、2年生の「みんなで協力し よう!絵合わせボックス」は、小学 校の先生と支援学校小学部の先生が 一緒にリンゴ箱に「どんちゃん」の 絵を貼り準備し、両校の2年生が一 緒に練習も運動会当日も精一杯組み立 てていました。

どの学年も種目づくり・準備から小 学校と支援学校の子どもたち・先生方 が「共に創る運動会」になりました。





小学校 1 年生と小学部が廊下で カラー石灰の線に沿って、みんなまっ 一緒に練習 すぐ走りました





高いかごとどんちゃんの口に入れる2種類の方法が用意された玉入れ



小学校と支援学校の職員が一緒に「絵合わせボックス」の準備。運動会当日、たくさんの「どんちゃん」が次々と完成しました。









係活動や応援もせいいっぱい、みんなで創った運動会でした

常盤中学校と中学部の交流

常盤中学校の文化祭の前に、生徒会役員の皆さんが中学部を訪れ、常盤祭のポスターと JRC 委員会の皆さんからのメッセージを届けてくれました。

これまで、年度当初の交流の始まりには中学部全員で 中学校へ行って交流したり、文化祭や体育祭には中学部 みんなで参加したりしていたのですが、コロナ禍になっ てからは代表者による交流となっています。昨年に引き 続き、年度当初はビデオでの中学部紹介、そして文化祭 は作品展示と見学を行い、体育祭は参加を控えましたが 生徒会役員代表の方に人数を絞って、ささやかですが交 流することができました。

今後、中学部が作成したカレンダーを常盤中にお届け する予定です。今できる交流を継続し、再びみんなで直 接交流できる日が早く来ることを願っています。





常盤中生徒会役員さんからポスター&メッセージを受け取りました

今年もみんなで一緒に楽しみました 「みすず祭」



毎回の授業の始まりは、音楽に合わせてみんなで「笠鉾」を曳きました

10月は中庭で中学部の生活単元学習「みすず祭」が行われました。中学部の生徒・先生たちで「みんなが楽しめるお祭を!!」と昨年以上に工夫した「屋台」を準備し、小学部の友だちや保護者の方を招いて、一緒に楽しむことができました。

休み時間に中庭に出てくる小学校の友だちも興味津々で、準備している屋台の様子を見たり、「ピタゴラ」で楽しんだりする姿がありました。





ビー玉がころがり落ちる「ピタゴラ」は大人気!小学部の子 どもたちが繰り返し楽しんでいました





「みんなのひろば」のステージも手作りでリニューアル しました



でさしく接客する中学部のお姉さん

響かせ、聴き合い、認め合った音楽会

11/1(火)には小学校・小学部の音楽会が行われました。今年もコロナ感染予防のため、2学年ずつの分散開催となりました。どの学年も、練習の成果を精一杯発揮したすばらしい演奏でした。一つのものをクラスみんなで創り上げる大変さと楽しさ、努力して創り上げた達成感を感じることができた音楽会となりました。音楽会当日には全校集まることはできませんでしたが、音楽会前の1週間に体育館での練習をお互いに聴き合う姿がありました。高学年になるほ

ど、歌声も合奏もレベルが上がり、聴き入っている子どもたちの姿、憧れの表情で感想を語る子どもたちの姿が印象的でした。



6年生の鼓笛は下級生の憧れ。「バックトゥザフューチャー」を初披露しました。







支援学校小学部の皆さんの「音楽会で おまつりわっしょい」 元気な太鼓の演奏が響きました。 小学校5・6年生も拍手や 紙吹雪で盛り上がりました。

音楽会が終わった翌日、各クラスの廊下には、他の学年からの感想メッセージが掲示されていました。そこには、がんばって創り上げたそれぞれのクラスの演奏のよさやがんばりがたくさん書かれたあたたかな言葉があふれていました。



「おまつりわっしょ い」は、手びょうしと したりリズムにのった りして楽しかったで す。とてもひびきのあ る曲で、いろいろすご 器で演奏していてすご いと思いました。

「ゆめをしんじて」 はやさしくて、きも ちがおだやかになり ました。「バックトゥ ザフューチャー」は じょうずでおどろき ました。





うたでは、ながれ ぼしやちょうちょ が再現されてい て、とてもかわい かったしじょうず でした。 「あなたにありがと う」はすごくやさし い声でうたっていま したね。「情熱大 陸」は、すごいはく りょくでした!





「こぎつね」はけんばんハーモ ニカの音と木きんの音がよく出 ていてかっこよかったです



「ふじ山」は一人一人が元 気な声で歌っていてすごい と思いました。



「八木節」の合奏が勢いが強 くとても大きくひびいて心に 残りました。

地域の歴史を学ぶ・地域の方から学ぶ【6年社会】

~なぜ堀直虎は奥田神社に祀られるほどの人になったのだろう?~

須坂小学校の校長室には、第13代須坂藩主堀直虎公の肖像が額に入っ て飾られています。6年竹組では、江戸時代(幕末)の学習にあたり、奥 田神社について調べたり、須坂藩の陣屋跡の地図と今の建物を比 べたりする中で、「なぜ堀直虎は奥田神社に祀られるほどの人に

なったのだろう?」という学習問題を追究しました。

須坂市文書館大塚様、田中本家田中様、元須坂市博物館長涌井 様など、地域の歴史に詳しい方から直接お話をお聞きすること で、須坂小学校と堀家、奥田神社とのつながりを知り、「な ぜ?」という疑問を深めたり、学習問題の答を自分なりに考え、 深めたりすることができた子どもたち。

最初は地図を見たらどこか分からな かったけど,行ってみたら分かって きました。江戸時代の地図を見たら 今とかわらない所や変わっていると ころがあることがわかりました。

陣屋の半分が学校になったこと や、今の⑬に北側の門があったこ とが分かった。

須坂は歴史があってすごいなと思 った。

単元の終末では次のような記述がありました。

直虎は、須坂だけでなく日本全体の ことも考えていたし、人々のために 大切にされていることがわかった。 自分たちもこれからも奥田神社を大 切にしていきたい。

日本のために最善をつくしていたり、 問や武芸を身につけた直虎を須坂の人は 努力してくれたからまつられ、今も||愛したから、奥田神社にまつられるほど の人になったのだとわかりました。こん なにすごい人がいた須坂に生まれること ができて、すごくうれしかったです。

自分たちが住んでいる地域の「ひと・もの・こと」に出会い、実際に歩いて見て回り、地 域の方のお話を聞いたり資料を調べたりすることを通して、先人の業績を知り、そして地域 の方々の思いに触れることで、自身のふるさと須坂への思いを強くする学びとなりました。 ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「共にある学校~つながる~」‥メセナホールで発表します‥

11月19日(土)にメセナホールで「第49回 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集 会」が開かれます。今年度は須坂小学校・須坂支援 学校が学校・PTA 人権教育推進校に指定されてお り、先日、PTA 役員・児童生徒代表・職員代表で発 表動画の撮影をしました。小学校1年生が支援学校 の生活単元学習に参加したこと、プレイルームで一 緒に遊んだことなどの日常の交流や、運動会や音楽 会などの共に創る行事の様子など、「共にある学校」 として同じ校舎での生活を通しての両校の子どもたち



小学校の児童と支援学校の児童が力を合わ せて発表(録画)しました

の学びや育ちについて分担して発表する姿を撮影しました。障がいのあるなしにかかわら ず、同じ一人の人間として、つながり共に学び合う子どもの姿や、保護者の方々が感じてお られる「小さい頃から自然に交流があることの良さ」等を発信します。コロナ禍で当日の会 場参加人数が制限されるため、発表内容は参観日の際に紹介する予定です。